

2 各種委員会報告

2.1 図書委員会

2014 年度は委員会を 4 回開催した。各回の審議事項は下記のとおりである。

第 1 回（5 月 14 日）① 2014 年度各種委員会委員構成について

第 2 回（6 月 30 日）① 2015 年度教育・研究に関する年度計画書について

第 3 回（10 月 27 日）① 2015 年度予算編成方針および図書館予算について

② 2014 年度図書館図書費の追加配分について

第 4 回（2 月 26 日）① 2015 年度予算について

② 2015 年度図書予算配分について

③ 2015 年度図書館各種資料申込みについて

以上にに基づき実施された政策の特記事項として、以下が挙げられる。

● 2015 年度において、図書館開館業務委託費、図書館資料整理業務委託費等の契約については、2013 年度並の予算確保ができたが、その他の図書館予算については 2014 年度から厳しい状況が続いている。特に研究用図書費、学習用図書費については若干の増額が実現できたものの、電子ジャーナル、データベース等の契約維持、値上りに対応するため、大幅な増額は実現できていない。

● 2015 年度予算要求において、教員からデータベース契約要望が高かった「Nineteenth Century Collections Online (NCCO)」が「特定課題推進費（旧政策経費）」で認められた。

2.2 収書部会

2014 年度は部会を 2 回開催した。各回の審議事項は下記のとおりである。

第 1 回（10 月 10 日）① 2014 年度図書館図書費追加分の配分について

② 研究用図書予算一本化の時期延長について

第 2 回（2 月 18 日）① 2015 年度図書館資料費配分について

② 図書館資料費の効率的運用に向けて

③ 図書館資料費の配分方法の見直しについて

今後は、図書館資料費の効率的な運用に向けて、研究用図書費だけではなく、雑誌費等を含めた図書館資料費の配分方法を、収書部会で見直すこととした。

2.3 特別資料選定分科会

本年度は予算的な事情により、特別資料費による特別資料の公募・選定を行わなかった。

2.4 電子資料選定分科会

2014 年度は以下のとおり分科会を開催した。

● 第 1 回（7 月 1 日）： 新規研究用新聞・雑誌、新規学習用新聞・雑誌、およびバックナンバー選定、新規電子資料の選定

● 第 2 回（12 月 9 日）： 新規電子資料の選定、新規学習用新聞・雑誌、およびバックナンバー選定

上記選定の結果、研究用新聞・雑誌 1 誌（和雑誌）、学習用新聞・雑誌 9 誌（洋 2 誌、和 7 誌）、バックナンバー 2 誌（洋 1 誌、和 1 誌）を新規契約・購入した。データベース等電子資料について 3 点を導入することを決定した（別項「新規契約電子資料」参照）。

そのほか、一次資料データベース『Nineteenth Century Collections Online(NCCO)』の導入にむけて、大変高額ではあるが価値の重要性から、2015 年度の政策的経費として予算要求していくこととした。

雑誌・電子資料費用の図書費予算への圧迫に関する問題については、大変複雑な要素（1.2 学術雑誌価格高騰を参照）が絡み合っているため解決への道は簡単ではないが、引き続き検討を重ねていくことを改めて確認した。

2.5 図書館基礎資料選定分科会

今年度より蔵書のデジタル化資料は図書資産として計上することになり、検討の結果、図書館基礎資料費を充てることを決定した。デジタル化を行った資料は、以下のとおりである。

- クリスチャン・ポラックコレクション
- 岩田豊樹文庫コレクション

2.6 アフリカ文庫選定分科会

2014 年度は、分科会を招集せず、メールによる会議の形式で協議・選定を行った。その結果、図書の購入については、予算縮小ということもあり、前年度（2013 年度）に選書したリストから購読できなかったものを優先に購入した。結果、45 冊の図書を購入した。

2.7 蘆田文庫選定分科会

例年のとおり、定例の分科会の開催は最小限にとどめ、相互の連絡による機動的な選定活動を行った。本年度は以下の資料を選定した。

- 寛保二年唐太全圖 . -- [出版者不明], 1742.
- [蝦夷地図] / [近藤重蔵原図]. -- [書写者不明], 18--.
- [嘉永三年二月五日麴町の大火]. -- [出版者不明], 1850.
- [江戸・文政の大火]. -- [出版者不明], 1829.
- 本志らべ大新板 : 元治元年甲子京大火・文久三年大阪大火・天保八年大阪大火 . -- [出版者不明], 18--.
- 嘉永五子年類焼後の噺 . -- [出版者不明], 1852.
- 人のうわさ : 伏見大火 , さかい大火 , 大坂御城 . -- [出版者不明], 186--.
- Le grand dictionnaire geographique : historique et critique / par M. Bruzen de La Martiniere ... ; t.1 - t. 6. -- Nouv. ed., corr. & amplement augmentee. -- Chez les libraires associes, 1768.

2.8 江戸文藝文庫選定分科会

本年度は分科会を招集せず、メーリングリストによる会議の形式で協議・選定を行った。その結果、購入した資料は以下のとおりである。

- 菊水物語 5 巻 / 永壽堂 [作]; 勝川春山画 . -- [西村屋与八]. [寛政 10 (1798)]
- 草紙合高評雙六 / 梅素亭玄魚稿 ; 一陽齋豊國画 . -- 若狭屋与市 , [江戸末期]
- 戀渡操八橋 4 巻 / 式亭小三馬作 ; 香蝶樓國貞画 . -- 松原堂 , 天保 12 [1841]

2.9 ケベック文庫選定分科会

2005 年度にカナダ・ケベック州政府の助成を受け、2006 年度から本学拠出金と合わせて実質的なケベック文庫資料収集が始まったが、2010 年にケベック州政府からの助成が中止となった。

今年度は分科会を開催しなかったが、前座長である故小畑精和教授のご遺族からの寄贈資料を主に、466 冊（和書 44 冊、洋書 422 冊）を受け入れた。蔵書数は 2015 年 3 月末現在で 3,326 冊（和書 182 冊、洋書 3,144 冊）。

今後、図書館としてケベック文庫のあり方について検討をする必要があろう。

2.10 日本近代文学文庫選定分科会

7 月に分科会を開催し、日本近代文学文庫選書基準（案）および選書方法を確認した。2014 年度は、全 20 点の資料を購入した。主な収集資料は以下のとおりである。

- 眼鏡 / 島崎藤村 , -- 実業之日本社 , 大 2
- 色鳥 / 夏目漱石 . -- 新潮社 , 大 4

- 青き魚を釣る人 / 室生犀星 . -- アルス , 大 4
- 体操詩集 / 村野四郎 . -- アオイ書房 , 昭 14
- 昔薊 / 高浜虚子 . -- 書林新甲鳥 , 昭 27

2.11 学術・教育成果リポジトリ運営部会

2014 年度も、継続して著作権者への許諾書発送、および許諾論文のメタデータ PDF データの作成を業務委託により実施した。対象コンテンツは各学部紀要等の学内出版物、博士論文である。登録論文件数は 12,000 件を超えた。公開の詳細はリポジトリ HP から参照できる。

学内でもリポジトリへの関心が高まっており、許諾、コンテンツの電子化について他部署との連携協力体制が構築されてきた。博士論文のインターネットでの公開義務化に伴い、本学では博士論文を機関リポジトリで公開することが決まり、今年度は 2013 年度博士学位論文 52 件が登録公開された。

2.12 図書館紀要編集部会

第 19 号を刊行した。(A5 版, 178 頁, 2015 年 3 月 10 日刊行)

本年度は部会を召集せず、2014 年 9 月 26 日～10 月 3 日にメール審議にて、編集方針や執筆依頼先等を確認した。論文数は、本学教員から 5 本、図書館職員から 6 本、元教員から 1 本、自主研修グループ報告が 2 本の計 14 本。また、前年度に引き続き、DTP ソフトウェアを使用して 2 校以降の編集作業を事務局で行ったことにより、編集にかかる時間を削減することが出来た。

2.13 書評コンテスト選考部会

応募要領を 7 月に公開。9 月下旬に中野を除く 3 図書館で計 5 回の「書評の書き方講座」を行い、合計 41 名が参加した。募集期間は 10 月 1 日から 31 日までであり、31 編の応募があった。4 図書館事務室有志の協力による予備審査を経て、12 月 15 日に選考部会を開催し、最優秀賞から佳作まで 12 名の受賞者を選定した。1 月 31 日に中央図書館多目的ホールで授賞式を行った。その後、受賞作品を HP に掲載したほか、らいぶ別冊特集号「第 5 回明治大学図書館書評コンテスト受賞作品集」を刊行して配布した。3 月に中央図書館 1 階エントランス内側に「書評コンテストコーナー」を設置し書評対象作品を展示することにより、図書の貸出を促進した。

2.14 生田図書館ギャラリー運営部会

部会長の小倉副館長の招集に基づき、理工学部、農学部各 2 名の図書委員ならびに生田図書館事務長以下、4 名の職員からなる運営部会メンバー全員出席のもとで、2015 年 3 月 5 日に運営部会を開催した。前回の運営部会で、教員メンバーから現行の『生田図書館 GalleryZERO 利用規約』に「目的」と「運営」を明記する必要が提議され、承認されたことを受けて、今回の運営部会で「1. 目的」として「明治大学の建学の精神と使命に基づき、生田キャンパスの知の創造と人材の育成に資することを目的とする」、「2. 運営」として「運営にかかわることは、生田図書館ギャラリー運営部会で審議し、決定する」を明記することが全会一致で承認された。また、展示内容に従来のゼミ、研究室、教員の研究成果の発表に加え、「生田キャンパス全体に関わる展示（地域連携、防災、環境展示など）」を追加することが承認された。

2014 年 12 月初旬に公募した「2015 年度生田図書館 GalleryZERO 展示募集」には理工学部、農学部、先端数理科学研究科、生田キャンパス省エネルギー部会等から 9 件の応募があり、その後、理工学部新領域創造専攻から 1 件の追加企画と生田図書館事務室企画 4 件を含めて、全 14 件の展示内容、展示スケジュールが承認された。

2.15 図書館活用法タスクフォース

学部間共通総合講座「図書館活用法」の円滑な運営と講座担当者の資質の向上を目指して活動した。授業振り返りのための現履修者対象のアンケート、および授業評価を目的に履修経験のある 4 年生を対象にしたアンケートを行った。現履修者へのアンケート結果では、レポート・論文の書き方を学ぶことへの期待が大きいこと、参

加型のグループワークの導入が望まれていることがわかった。レポート・論文の書き方については、各専門分野に適したレポート・論文を書く前段階として、基礎的な内容を教える授業とすること、グループワークについては、全ての回ではなく、授業テーマに沿って検討することとした。4年生へのアンケート結果では、この授業内容が、他の授業や学術の場において役立ったとの評価であった。さらに多くの学生が1年生で履修することが望ましいと考えていることがわかった。

また、中期的な課題として、100分授業へ移行する2017年度以降の授業のあり方について意見交換をし、今後具体的な検討が必要であることを共通認識とした。

2.16 利用案内編集分科会

2015年度の利用案内について、下記のとおり刊行した。

- ・「利用案内（学生用）2015」（A5変形型，28頁，12,000部）

大きな変更点としては、「MetaLib」については、2015年度中に変更になる確率が高いことから、電子ブックの記述に変更した。

以下の利用案内は変更箇所が少なく、残数があるため、新規に作成せず残数を活用することにした。

- ・「教員用利用案内」（修正箇所をまとめた挟み込み資料を作成した。）
- ・「文献の探し方」
- ・「OPAC ユーザーズガイド（冊子版）」
- ・「OPAC ユーザーズガイド（ダイジェスト版）」

今後は、OPAC ユーザーズガイドを図書館 HP 上で利用できるように公開準備を進めていくことにする。

この他、図書館開館ミニカレンダーの体裁についても意見交換を行った。これにともない、各図書館の英語表記を追加した。

2.17 らいぶ（図書館報）編集分科会

2015年度から新生が身近に感じ、思わず手にとりたくなるように、長く続いてきた図書館所蔵の内外の貴重書を主としたアカデミックな表紙から、各キャンパスの学生たちをモデルとした楽しく明るい表紙に刷新した。『らいぶ』の多くは新入生図書館利用ガイダンスで配布するため、教員による図書館への誘いメッセージ、ポータルサービス、明治大学4図書館（中央・和泉・生田・中野）の館内マップと各館でよく読まれた本のリスト、図書館を上手に利用するための「図書館活用術」など、初めて大学図書館を利用する学生たちを対象にイラストや図を多く入れて分かりやすい図書館紹介パンフレットとした。A4版、カラー刷り10頁、8,000部で2015年3月に刊行。

なお、前年に引き続き、書評コンテスト受賞作品集を『らいぶ』別冊特集号として、学内印刷でA4版、白黒16頁、400部を2015年3月に刊行した。

2.18 中央学習用選書分科会

中央学習用図書選書分科会は中央図書館事務長を座長とし、図書館総務事務室および中央図書館事務室の各担当から選出された会員により形成される。

本分科会は原則隔週で開催されており、和書5社、洋書3社の見計らいによる新刊学習用図書の選定や寄贈本の受入可否決定等を行うものである。

2014年度中央学習用予算は、年度当初の全体的な予算削減および年度中の予算追加により、最終的には前年度比約75%となった。本予算は他館予算に比べ継続資料による執行額の割合が圧倒的に大きいことが特徴であり、継続資料見直しを行ったものの、新規の図書購入は昨年度の約6割と大きく減少した。

2.19 教員による学習用選書委員会

委員長の小倉副館長の招集に基づき、理工学部、農学部の学部ごとに開催している。2014年度は6月20日

に理工学部教員による学習用図書選書委員会を開催した。理工学部の図書委員（図書委員は学科選出の学習用選書委員を兼ねる）と電気電子生命科学科、機械情報工学科、物理科、数学科の各選書委員が出席し、学生の読書支援策について協議を行い、夏休みの読書支援策として、「緑陰読書～教員がすすめる本」（以下、「おすすめ本」）の企画を実施することとなった。生田図書館は、記載用紙を図書館 HP からダウンロードできるようにし、選書委員は各学科で「おすすめ本」実施の趣旨と図書館へのリスト送付方法を周知し、先生方からの「おすすめ本」はメール添付で生田図書館事務室に送付してもらった。「おすすめ本」は教員ごとに配架し、「おすすめのひとこと」を書いたポップもつけて、夏期休暇期間中、新着図書配架棚、特集コーナーに配架したが、教員おすすめ本は学生の貸出が多い。

農学部は委員会は開催されなかったが、各学科の選書委員が毎週、生田図書館の学習用選書で来館される時におすすめ本をお願いし、何名かの先生におすすめ本リストをあげていただいた。

2014 年度の「教員による学習用図書選書委員会」は副館長のほか、理工学部 9 名、農学部 5 名から構成されており、毎週 1 回、見計らい図書が納品されると図書館から両学部の選書委員に連絡するが、先生方はそれぞれの授業の合間に来館され、「明治大学図書館の収書に関する基本方針」、「生田図書館学習用図書選書基準」に基づいて選書が行われている。

2.20 オンラインサービス WG

本 WG は電子リソース提供に関する業務を行っている。リンクリゾルバの設定や設定変更、図書館 HP の更新作業、SNS を含めた広報も含む。実際の設定や各事例への対応はメーリングリストや業務管理ツールを用いて WG メンバーが日常的に作業を行っている。2014 年度は、以下の通り WG を開催し、直接討議を行った。

第 1 回（2014 年 12 月 16 日）

議題：ディスカバリーサービス導入検討と MetaLib 停止、Swetswise 作業、電子資料契約・導入、図書館 HP 更新分担

2.21 雑誌・電子ジャーナル契約検討 WG

学術雑誌価格高騰への抜本的対応策を検討するために、本 WG は 2013 年度に設置された。2014 年度は、合計 7 回検討会を開催した。なお、WG の活動、検討内容については、p.1「1.2 学術雑誌価格高騰」を参照されたい。

2.22 図書館職員育成に関する WG

図書館業務が大きく変化する中で、伝統的な業務に加えて新たな業務が求められている。一方、人事政策により図書館の専任職員数が大きく削減されてきたことに加え、他部署からの異動者も増えてきており、伝統的な業務の継承すら危なくなっている。このような状況下で、図書館職員の育成は重要な課題である、と年度計画書に毎年挙げていたが、具体的な方策は取ってこなかった。これを改善するため、2013 年度に「図書館職員育成に関する WG」を学術・社会連携部長の提言のもとに立ち上げた。

2013 年度は、図書館職員のキャリアパスとして、概念的な目標を設定し、実態の把握と目標到達のための必要なスキルの洗い出し、キャリアパスの考え方を示した。

2014 年度は、前年度の考え方を踏まえつつ、具体的なキャリアパスを作成することとした。そこで、各業務における目標値、役割、スキル等を洗い出す作業を行ったが、まとめる段階には至っていない。次年度も活動を継続する予定である。